平成１９年度第４回高知県森林環境保全基金運営委員会　議事録

１　日　　時　平成 19 年 11 月 13 日（火）　10 時 00 分～11 時 00 分
２　場　　所　高知城ホール　２Ｆ中会議室「せんだん」
３　出 席 者　【委員】
根小田委員（委員長）、堀澤委員（副委員長）、川村委員、窪田委員、田岡委員、津野委員、山中委員
（出席者７名、欠席委員：栗田委員、齋藤委員、松本委員）
４　配付資料
平成 19 年度第４回高知県森林環境保全基金運営委員会資料
５　議　　題
（１）１２月補正予算について
（２）その他
６　部長あいさつ
・　前回の委員会では、来年度からの新しい森林環境税の使いみちや、負担のあり方等について一定の方向性をお示しいただいた。
・　本日は、若齢林を対象とする間伐について、来年度から実施する場合、本年度の事業に影響が出る恐れがあることから、基金の残高を活用して、１２月に補正予算を組み、本年度から実施することについて、ご審議いただきたいと考えておりますので、よろしく願いします。

７　議事
（根小田委員長）
・　議事録署名人について、窪田委員と津野委員を指名する。

（１）12 月補正予算について
（事務局）
・　森林環境税を使って 20 年度以降に実施を予定していた若齢林を対象とする間伐を､12 月補正予算により 19 年度から実施することについて､①１ha 当たり 25,000 円を支援金として交付すること、②国庫補助事業に補助申請をしている事業を対象とすること、③市町村、森林整備公社、大規模所有者は対象外とすること、④事業規模は、2,800ha、金額にして 70,000 千円とすること、⑤事業実施に当たっては、付帯条件を付けること等を説明する。
（根小田委員長）
・　何か質問はないか。

（堀澤副委員長）

・　山林所有者の自己負担額の半分を支援するという説明であったが、山林所有者にとって 25,000 円はどの程度の負担感であるといったデータはあるのか。

（事務局）

・　データはないが、高知県の民有林の所有形態は零細なので、１年に１ha の間伐する所有者はあまりいない。そのため、所有者の負担は 25,000 円よりも少なくなり、それほど大きいものではないと思う。

（堀澤副委員長）

・　所有者の負担を半分、或いは４割にすることで、効果が上がるといった見込みや試算はあるのか。

（事務局）

・　所有者の負担を 25,000 円、23,000 円にした際の試算は行っていないが、出先機関から得られる情報等を総合すると、所有者の負担を半分にすることで、間伐が進むという感触は持っている。

（川村委員）

・　高知県で間伐する人は、１年間で平均１ha の間伐をするのか。

（事務局）

・　１年間で１ha 間伐する人はかなり規模が大きい方であり、このような人は少ない。

（副部長）

・　水土保全林（保全型）を強度の間伐により、将来的に針広混交林にする事業がある。この事業は、経済的に成り立たないということから、県から９割の補助がある。９割補助は、森林所有者に対して、かなりのインセンティブがあった。今回の事業も実質９割程度の支援となるので、所有者にとってのインセンティブはかなり働くだろうと思っている。

（田岡委員）

・　事業については賛成。

・　20 年生、30 年生の山を手入れしたからといって、お金にはならない。手入れをすることで、荒廃林を無くし、次につなげていくということに森林環境税を使うということは、決して悪いことではない。

（山中委員）

・　９割補助は、小規模所有者等にとって効果があったと思う。今回の取り組みには賛成。

・　70,000 千円の事業量の確保は、十分可能なのか。

（事務局）

・　これまでの実績等を踏まえ、これぐらいの事業量としている。ただ、徐々に対象林が減ってくるので、やってみないと分からないところもある。

（根小田委員長）

・　他に何か無いでしょうか。特に無いようでしたら、１２月補正予算案の事業内容、予算規模は、提案内容でよろしいでしょうか。

～全員異議無し～

（２）その他

（事務局）

・　パブリックコメントについて、寄せられた意見の概要とそれに対する考え方を、事務局で取りまとめ、委員長、副委員長に確認をしていただき、本日了承をいただいた。これについては、11 月 15 日から県のホームページ、県民室、出先事務所等で公開する予定。また、委員の皆様には後日郵送させていただく。

（山中委員）

・　今、子ども達が自然体験をする機会が少ないので、来年度以降、是非、ソフト事業に配慮していただきたい。

（森林部長）

・　来年度に向けて、県としても森林環境学習に力を入れていきたい。一方で、総合学習の時間を減らすという動きがあり、小中学校で取り組みができないということも聞いている。学校ではなかなか進みづらくなってきていることから、自発的な取り組みを幅広く支援していきたい。

（堀澤副委員長）

・　若齢林の間伐に力を入れて進めるというのは、強硬な気がする。反面 CO2 の吸収や山の荒廃からして必要ということは理解できる。来年度以降は教育にも力を入れてもらいたい。高知の子ども達が山を理解しようという教育に力を入れていただきたい。

以上、この議事録が事実と相違ないことを証明します。

平成１９年１２月６日

議　　長

議事録署名人

同　　上